

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	土地	4,150,000	当座預金	4,150,000
2	買掛金	50,000	仕入	50,000
3	受取手形	300,000	売上	800,000
	支払手形	350,000		
	売掛金	150,000		
	発送費	20,000	当座預金	20,000
4	租税公課	180,000	当座預金	300,000
	引出金	120,000		
5	給料	400,000	立替金	30,000
			預り金	50,000
			当座預金	320,000

・解説

1. 固定資産の購入に関する問題です。

建物や車両、備品、土地などの固定資産を購入したさいに、不可避免的に発生した費用（付随費用）は**購入原価に含めて処理**します。本問の「**登記料 ¥ 50,000 および仲介手数料 ¥ 100,000**」も、購入原価に含めて処理しましょう。

$$\text{購入代価} = 200 \text{ m}^2 \times @20,000 \text{ 円} = 4,000,000 \text{ 円}$$

$$\text{付随費用（登記料および仲介手数料）} = 50,000 \text{ 円} + 100,000 \text{ 円} = 150,000 \text{ 円}$$

$$\text{購入原価} = \text{購入代価 } 4,000,000 \text{ 円} + \text{付随費用 } 150,000 \text{ 円} = \mathbf{4,150,000 \text{ 円}}$$

固定資産の購入に関する問題は、第100回の間5や第101回の間4、第109回の間3、第113回の間3、第116回の間2、第118回の間2、第123回の間3、第128回の間5、第129回の間2、第132回の間3、第139回の間2、第143回の間4、第145回の間4、第148回の間4、第150回の間1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 仕入戻しに関する問題です。

仕入戻しとは、仕入先に商品を返品することですから、**仕入時の逆仕訳**を切ります。

☆参考・仕入時の仕訳（既に切られている仕訳）

（借）仕入 50,000 / （貸）買掛金 50,000

★解答・逆仕訳を切るだけ

（借）買掛金 50,000 / （貸）仕入 50,000

なお、問題文の許容勘定群に仕入勘定ではなく仕入戻し勘定しかない場合は、仕入勘定の評価勘定である仕入戻し勘定を使って処理します。なお、仕入戻し勘定はその後、決算整理のときに仕入勘定に振り替えます。

☆参考・仕入戻し勘定を使う場合の仕訳

(借) 買掛金 50,000 / (貸) 仕入戻し 50,000

☆参考・決算整理時

(借) 仕入戻し 50,000 / (貸) 仕入 50,000

仕入戻しに関する問題は、第 113 回の間 4や第 132 回の間 4でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 売上取引に関する問題です。

このような問題は【約束手形に関する取引】【裏書手形に関する取引】【掛け売上に関する取引】【発送運賃に関する取引】の4つに分けて考えましょう。

【約束手形に関する取引】

問題文に「代金のうち 円 300,000 については同店振出し、当店あての約束手形で受け取り」とあるので、他店振出の約束手形の受け取り、つまり受取手形の増加として処理します。

★解答①

(借) 受取手形 300,000 / (貸) 売上 300,000

【裏書手形に関する取引】

問題文に「円 350,000 については当店振出し、松本商店あての約束手形の裏書譲渡を受け」とあるので、当店振出の約束手形の受け取り、つまり支払手形の減少として処理します。この仕訳については、約束手形振出時の仕訳を考えると分かりやすいです。

☆参考・約束手形振出時の仕訳

(借) 仕入など 350,000 / (貸) 支払手形 350,000

★解答②

(借) 支払手形 350,000 / (貸) 売上 350,000

【掛け売上に関する取引】

これは簡単です。普通に掛け売上をした時の仕訳を切るだけです。

★解答③

(借) 売掛金 150,000 / (貸) 売上 150,000

【発送運賃に関する取引】

問題文の「当店負担の発送運賃 円 20,000 については小切手を振り出して支払った」から、当該発送運賃が当店負担であることが分かるので、発送費などの勘定科目を使って費用処理します。なお、先方負担の場合は仕訳が異なるので、あわせて押さえておいてください。

★解答④

(借) 発送費 20,000 / (貸) 現金 20,000

☆参考・先方負担で、売上債権である売掛金勘定に含めて処理する方法

(借) 売掛金 20,000 / (貸) 現金 20,000

☆参考・先方負担で、立替金勘定を使って売上債権である売掛金とは別にして処理する方法

(借) 立替金 20,000 / (貸) 現金 20,000

先方負担の場合、どちらによるかは必ず問題文に指示があるので見落とさないようにしてください。まれに問題文に指示がない場合もありますが、その場合は許容勘定群や解答用紙などにヒントが隠れているので、慌てずに落ち着いて対処してください。

以上、①②③④をまとめると解答仕訳になります。

本問はやや難易度の高い問題なので、間違えてしまった方も多いと思いますが、ひとつひとつに分解して考えれば正解まで辿りつけるはずです。

4. 資本の引き出し・租税公課に関する問題です。

納付した固定資産税 300,000 円に関しては、営業用（事業用）と店主用の 2 つに分けたうえで、前者を**租税公課**で費用処理し、後者を**資本の引き出し**として処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に引出金がある（資本金がない）ので、資本の引き出しに関する仕訳は**引出金**で処理します。

・ 60%は事業用 → 180,000 円 (=300,000 円×60%) は**租税公課**で費用処理

・ 40%は店主用 → 120,000 円 (=300,000 円×40%) は**引出金**で処理

資本の引き出しに関する問題は、第 102 回の問 3、第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 136 回の問 1、第 139 回の問 4、第 145 回の問 1、第 147 回の問 2 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

租税公課に関する問題は第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 137 回の問 2、第 139 回の問 4、第 141 回の問 5、第 146 回の問 3、第 147 回の問 2、第 150 回の問 5 でも出題されているので、こちらもあわせてご確認ください。

5. 所得税の源泉徴収に関する問題です。

この問題は【立替払いに関する仕訳】と【所得税の源泉徴収に関する仕訳】と【当座払いに関する仕訳】の 3 つに分けて考えましょう。

【立替払いに関する仕訳】

まず「先に立替払いしていた従業員の生命保険料 円 30,000」ですが、立て替えた時の仕訳をイメージしたうえで解答仕訳を考えると分かりやすいです。

☆参考・立替時の仕訳

(借) 立替金 30,000 / (貸) 現金など 30,000

★解答①

(借) 給料 30,000 / (貸) 立替金 30,000

【所得税の源泉徴収に関する仕訳】

次に、「**所得税の源泉徴収分 ¥ 50,000**」ですが、これは所得税を給料から天引きしておいて、後で会社がまとめて税務署に納税するものなので、天引き段階では「預り金」勘定で処理します。

★解答②

(借) 給料 50,000 / (貸) 預り金 50,000

【当座払いに関する仕訳】

最後に当座払いに関する仕訳ですが、これは簡単なので何も問題ないと思います。

★解答③

(借) 給料 320,000 / (貸) 当座預金 320,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

所得税の源泉徴収に関する問題は、第100回の間3や第101回の間3、第102回の間4、第109回の間2、第117回の間4、第121回の間2、第128回の間4、第130回の間3、第131回の間4、第140回の間4、第142回の間2、第143回の間5、第145回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。